

## 『客観的であること、バランスが取れていること』

訳 壽 健太

「昨日、O市にある教会の塔から屋根葺き職人が転落。イタリア人出稼ぎ労働者のS. A. (34) さんには妻と三人の子どもがいた。」

これはニュースである。より正確に言うとニュースであろうものだ。おそらく新聞やラジオ用ではあるが、きっとテレビ用ではないだろう。少なくともニュースを画面上で伝えるのであれば、前もって正確に検討しておかなければならない。

というのも、情報としてテレビで提供されるものは、「客観的でバランスの取れた」ものでなければならないからだ。我々の国会がそのように定めた。決定の背景にはスイスの教訓がある。その教訓に学ぶべきことは、完全に客観的とは言えないが常に少しバランスが取れているということである。

「客観的」というのは、あまりにも知的で抽象的な事実の捉え方である。「バランスの取れた」は、どちらかと言えば我々の理解力に相当する。これは天秤と小売人の関係に値するが、事実に関しては消費者の嗜好も考慮されるべきである。ゆえに、実際に支払う金額とは必ずしも一致しないような事実の適正価格が存在する。今後、事実の賞味期限を明記するべきではないか、ということを考えなければならない。事実の賞味期限がどれほど早く切れるかはよく知られていることである。

したがって、屋根葺き職人が教会の塔から落ちたというニュースは客観的かどうかだけでなく、バランスが取れているかどうかを検討する必要がある。

初めにカトリック教会の利益代表者らが言及することが予想される。命に関わるような事故が教会と関連しているため、屋根葺き職人の事故のようなニュースは教会のイメージに中傷的な印象を与えるに違いない。教会の塔は事故を防止するためにあるのではなく、人々を慰めるためにある。そのため、このようなニュースの場合は注意してその文言を考えなければならない。当該のニュースの事実確認を行ったカトリックの委員会は、上述の教会の塔がカトリック教会のものではなくプロテスタント教会のものであることが判明すると、ますます憤慨した。それゆえ、このニュースは次のように報道されなければならなかった。

「一昨日、O市にあるプロテスタント教会の塔から屋根葺き職人が転落……」

プロテスタント教会の利益代表者らはこの文言に同意できなかった。彼らは出稼ぎ労働者 S. A. 氏の悲劇的な事故がそのような論争に利用されることを気の毒に思った。彼らはまた、今後カトリック教会の塔と屋根の改修のための予算について慎重にならざるを得なくなるだろうと示唆した。しかしながらあからさまな衝突は回避することができた。というのも、全キリスト教会の調停委員会がユダヤ的調停提案に同意したからである。

「少し前の情報によると、屋根葺き職人は 15 から 17 メートル下に転落……」

しかし、根本的には、上述の教会の塔の宗派についての論争はとくに重要ではなくなっていた。全く異なる懸念が示されていたのである。商業組合は、その構成メンバーである屋根職人組合が誤った見方をされたため、そのニュースの元の表現に対してずいぶん前に抗議していた。商業組合は再度バランスの取れた表現を要求し、それをニュースの文言とすることを提案した。

「過失により O 市では一人の屋根葺き職人が 17 メートル下に転落。」しかし、最終版が出来上がった際には商業組合はひどく落胆した。「……イタリア人出稼ぎ労働者の S. A. (34) さんは、妻と三人の子どもに不安定な経済状況を残したまま亡くなった。」

そのニュースの第二稿は、社会民主党の党員であると噂されていた、夕方のニュース番組の若い記者が作成したものだった。このことから、かつて自

営業か企業家かということを厳密に区別していた自由民主党の者が何人か現れた。そのような偏った報道において、彼らはテレビニュースの反企業的な性質に異議を唱えざるを得ないらしい。

それと同時に共和党員と国民運動党の代表者らは声を上げた。彼らは資料を提示した。彼らの統計によると、職場での死亡事故の際、外国人労働者が夕方のニュース番組でよく取り上げられていたことは非常に明白であった。外国人が仕事場で亡くなった事故は五件、地元住民の事故は一件のみだったのである。今後はスイス人労働者の職場での死亡事故に対して、より一層配慮することが求められた。原則として、外国人の職場での死亡事故を三件ごとに一件のみ報道することが提案された。

出された提案を確認し、教会の塔から転落して死亡した屋根葺き職人のニュースに対する懸念について考慮した後、テレビ局はメディアに適した文言をまとめることができた。ある晩、テレビのニュースでは次のように報道された。

「三週間前、スイスで働く屋根葺き職人の数は確実に一人減った。」

Hugo Loetscher, “Objektiv und ausgewogen”, S. 77–81, in: ders., Der Waschküchenschlüssel, oder Was – wenn Gott Schweizer wäre, Zürich: Diogenes, 1988, (detebe 21633)